

令和3年度「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」実践研究事業

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちが取り組む 障害者等の学びの場づくり

効果的な生涯学習プログラムの実施に関する 報告書

2022年3月

日経BP

株式会社日経BP (プログラム実施地：岩手県陸前高田市)

事業名 ノーマライゼーションという言葉の知らないまちが取り組む障害者等の学びの場づくり

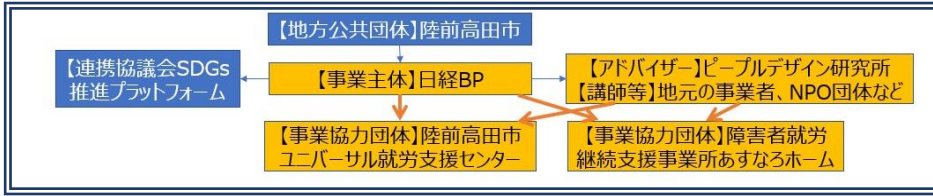
主な連携先 障害者就労継続支援事業所あすなるホーム、
陸前高田市ユニバーサル就労支援センター

主な対象 知的障害者(あすなるホーム)、
精神障害者(ユニバーサル就労支援センター)

事業の趣旨・目的

- ・SDGs未来都市が目指す、障害者等の学びの場のプログラム構築と実践
- ・講師には、地域に根差した持続可能なプログラムとするために、SDGsの普及・推進に取り組み、障害者の教育や就労に関わる地元の人材を起用
- ・社会課題の解決に向けた取り組みを通じて障害当事者が生きがいを感じ、笑顔を絶やさず生活できる学びの場を健常者も巻き込みながら実現する

事業実施体制



学習プログラムの内容

- あすなるホームを対象にした生涯学習プログラム**
- ①ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹氏)計4回実施
 - ②私もできるギター演奏(講師：石井優太氏)計4回実施
 - ③気軽に合奏キーボード(講師：あすなるホームの戸羽氏)計3回実施
 - ④絵葉書を描こう(講師：小松野麻実氏)1回実施
 - ⑤スライドカーリングとバトミントン体験(講師：千葉氏、村上氏)1回実施
 - ⑥ストレッチ・ウォーキングで健康づくり(講師：菊池氏、酒井氏)1回実施
 - ⑦手話ダンス「翼をください」(講師：社会福祉協議会 佐藤事務局長)1回実施
- ユニバーサル就労支援センターを対象にした就労体験プログラム**
- ⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)計2回実施
 - ⑨PCを使った動画・写真編集講座(講師：トナリノの清水健太氏)計3回実施

研究の成果と課題

- ・協力団体が支援している障害当事者が延べ140人プログラムに参加
- ・共通の内容を教えるのではなく当事者それぞれの個性を活かして実現できる学びをサポートしていくことで楽しく学びをステップアップできる
- ・ユニバーサル就労支援センターで実施した就労体験プログラムの参加者に対してプログラム内容とは違った業務だが就労を打診する話があった
- ・上記の打診を通じて、就労ありき(求人側と求職者)ではない出会いが、結果的に就労につながるきっかけにもなることが分かった
- ・一般的に10代の時期を逃すと出会いの機会が極端に減ってしまうが、成人した後も学びの場をつくれれば当事者と社会とのつながりが創出できる
- ・就労ありきではない“学びの場”という柔軟な「人と人の出会い」が重要
- ・来年度以降も学びを提供するために地元拠点となる施設と人材を確保



その他研究の詳細など

- ・今年度はコロナ禍ということもあり、協力団体を増やすことや健常者との交流の積極的な推進は難しかったが、来年度はコロナの終息状況を見ながら、ユニバーサル就労支援センターを中心に、講師を務めてくれた地元の人材をネットワーク化し、当事者の学びの場を市民に公開する形で実施することを検討している。▶共生社会コンファレンスの様子(<https://youtu.be/Wdtbss0FVjo>)



陸前高田市で実践した生涯学習プログラムの内容

日 程：2021年11月6日～2021年12月25日の間で計8日間実施

テーマ：ノーマライゼーションという言葉の知らないまちが取り組む障害者等の学びの場づくり

実施主体：株式会社日経BP

協力団体：障害者就労継続支援事業所あすなろホーム、陸前高田市ユニバーサル就労支援センター

対 象：協力団体が支援している障害当事者

参加者：延べ計140人

連携組織：陸前高田市、陸前高田市SDGs推進プラットフォーム

障害者就労継続支援事業所あすなろホームを対象にした生涯学習プログラムの内容

- ①ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹氏)※11/6、20、12/4、25の計4回実施
- ②私もできるギター演奏(講師：石井優太氏)※11/6、12/4、22、25の計4回実施
- ③気軽に合奏キーボード(講師：あすなろホームの戸羽氏)※11/6、12/4、25の計3回実施
- ④絵葉書を描こう (講師：小松野麻実氏)※11/20の計1回実施
- ⑤スライドカーリングとバトミントンを体験(講師：千葉育子氏、村上かなえ氏)※11/20実施
- ⑥ストレッチ・ウォーキングで健康づくり(講師：菊池純一氏、酒井菜穂子氏)※11/20実施
- ⑦手話ダンス「翼をください」ほか(講師：社会福祉協議会佐藤尚子事務局長)※11/20実施

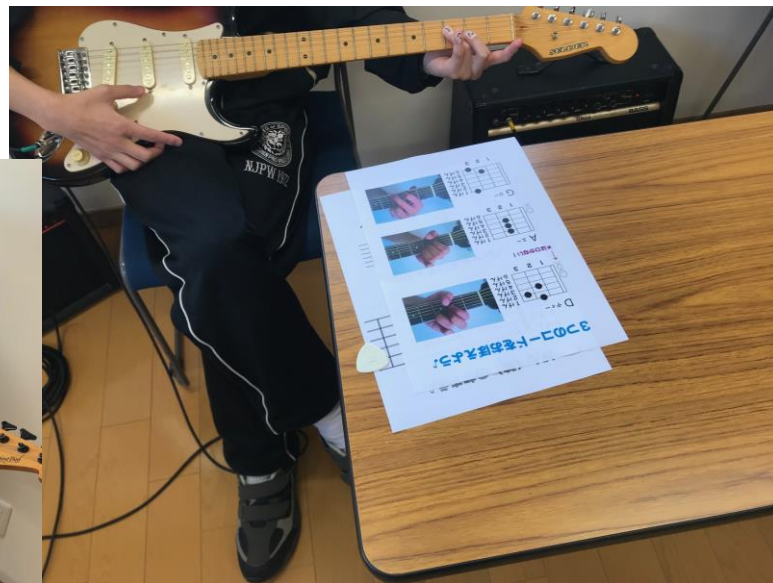
陸前高田市ユニバーサル就労支援センターを対象にした就労体験プログラム内容

- ⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※11/22、12/3の計2回実施
- ⑨PCを使った動画・写真編集講座(講師：トナリノの清水健太氏)※12/17(2回)、24の計3回実施

① ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹氏)※11/6、20、12/4、25の計4回実施



②私もできるギター演奏(講師：石井優太氏)※11/6、12/4、22、25の計4回実施



③気軽に合奏キーボード(講師：あすなろホームの戸羽氏)※11/6、12/4、25の計3回実施



④ 絵葉書を描こう (講師：小松野麻実氏)

※11/20の計1回実施



⑦ 手話ダンス「翼をください」ほか(講師：社会福祉協議会佐藤尚子事務局長)

※11/20実施



⑤スライドカーリングとバトミントンを体験(講師：千葉育子氏、村上かなえ氏)※11/20実施



①②③音楽チームとドミノチームのクリスマス合同発表会※12/25実施



⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※ 11/22、12/3の計2回実施



⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※ 11/22、12/3の計2回実施



⑨PCを使った動画・写真編集講座(講師：トナリノの清水健太氏)※12/17、24で計3回実施



●陸前高田市ユニバーサル就労支援センターの石井代表からのコメント プログラム実施後の展開

- ・多田工房より、D I Y体験の参加者（執筆業での就労希望者）に対し、ニュースレターの原稿作成を依頼する可能性について検討開始
 - ・トナリノより、動画編集講座の参加者に対し、インタビュー映像の文字起こし作業を依頼する可能性について検討開始
- ※実施したプログラム内容とは違う部分で、就労につながる可能性が芽生えつつあるプログラムを通して感じたこと
- ・意図されたものではない「人と人の出会い」の重要性
 - ・就労ありき（求人側と求職者）ではない出会いが、結果的に就労につながるきっかけにもなる
 - ・一般的には10代の時期を逃すと、そういった出会いの機会が極端に減ってしまう
 - ・成人した後も出会いの機会が確保されることで、その人と社会の可能性が広がる

●あすなるホームの千葉副施設長からのコメント

- ・事業を通して、利用者の長所の発見や仕事とは別の一面を見ることができ、よかったです。協力関係が生まれたり、あまり接点の無い人同士が仲良くなったり、と教室の効果もありました。
- ・継続するための課題としては、時間や場所、講師の確保、講師謝礼の捻出、覚えることに何倍も時間がかかる人に対しての手厚いサポートが必要と感じました。あすなるホームでは、今回の事業で得たことを活かし、利用者の皆さんの意見も聞きながら、クラブ活動を中心とした支援を、より充実させてゆきたいです。

●ドミノの講師を務めた田中大樹さんからのコメント

- ・【始める前に思ったこと】「みんなで1つの作品を作り上げる」なんて目標は可能か？
- ・【三回目で気付いたこと】それぞれの個性（真っすぐが得意、立て続けたい）を楽しむのでいいのではないかと、最終目標に向けた「みんなで1つの作品を作り上げる」は、こちら側が勝手に用意したエンタメなのではないか？
- ・【最後の回で思ったこと】「頑張らせてさせる」ことを考えるより、それぞれの個性を活かしてできること、強みをサポートしていくことで、楽しくステップアップできることを学んだ。

- ・協力団体が支援している障害当事者が延べ140人プログラムに参加
- ・共通の内容を教えるのではなく当事者それぞれの個性を活かして実現できる学びをサポートしていくことで楽しく学びをステップアップできる
- ・ユニバーサル就労支援センターで実施した就労体験プログラムの参加者に対してプログラム内容とは違った業務だが就労を打診する話があった
- ・上記の打診を通じて、就労ありき（求人側と求職者）ではない出会いが、結果的に就労につながるきっかけにもなることが分かった
- ・一般的に10代の時期を逃すと出会いの機会が極端に減ってしまうが、成人した後も学びの場をつくれれば当事者と社会とのつながりが創出できる
- ・就労ありきではない“学びの場”という柔軟な「人と人の出会い」が重要
- ・来年度以降も学びを提供するために地元に拠点となる施設と人材を確保

- ・今年度はコロナ禍ということもあり、協力団体を増やすことや健常者との交流の積極的な推進は難しかったが、来年度はコロナの終息状況を見ながら、ユニバーサル就労支援センターを中心に、講師を務めてくれた地元の人材をネットワーク化し、当事者の学びの場を市民に公開する形で実施することを検討している。